

◎ミッション2030◎ ニュースレター VOL.5

## [新しい協働]フォーラム

第5回「隣人となる恵み～国際ナショナル共同体との交わり」

イグナチオ教会では2017年度から「ミッション2030」に取り組み、「祈りを深める」「福音を伝える」「共同体を生きる」という各柱で、順次ワークショップを行ってきました。

今年度は「新しい協働」をテーマに、司祭、修道者、信徒の区別なく連携していくことを目指して、教会活動を広く見直すためのフォーラムを全6回の予定で開催しています。

第5回目のフォーラムは2022年2月6日(日)に行われ、3つの国際ナショナル共同体と3つの活動グループが活動内容などを報告し、発表後には参加者の皆さまとともに分かち合いを行いました。

## 英神父さまのお話

「私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、貧しい人や弱い人の声を聴き、皆でともに手をたずさえて(日本人も外国人も、若いも若きも)、福音の喜びを分かち合っていく使命を生きていきます」——これは「ミッション2030」の前文のなかの言葉です。異文化交流や外国人との共生は社会的にも重要な課題ですが、教会としても真剣に取り組まなければいけないものです。今回のフォーラムでは各国共同体の方々から活動状況を報告して頂きますが、「ミッション2030」のスタートから6年を経て、ようやくその端緒にたどり着いたといえるでしょう。

外国人信徒との交流を考える場合、単につながりだけを追求するのではなく、「どのように協働し、具体的に何をするか」までを考えることが大切です。

そして、その際に留意したいことがいくつかあります。まず一つは、言葉の壁をどう乗り越えるかということです。すべてはこれを前提に考える必要があります。

次に、「外国で暮らす」という特

別な環境と事情に配慮することです。外国で暮らす人々にとって、母国語でミサに与ること、母国の友人と一緒に過ごしたり母国語で話したりすることなどは、かけがえのないことです。私たちは彼らのそうした場や時間を尊重し、大切に守らなければなりません。

そして、日本の教会の将来はどこにあるかを考えることです。皆さんも実感しているように、日本人共同体は高齢化が予想以上に進んでいます。もはや日本の教会は、日本人信徒だけでは成り立ちません。教会に来られる外国人、とくに若者は積極的に熱心で、行動力にあふれています。外国人信徒との協働は、日本の教会そして日本人信徒に元気をもたらしてくれることでしょう。

当教会ではコロナ禍に入ってインターネット配信が活発になりました。その分野では既に、日本人と外国人の協働が進んでいます。今日は各国共同体の活動内容を皆で共有しながら、「協働・コラボレーション」という観点から、これからの教会のありかたを考えてみてください。

## 各国共同体の報告

## ◆イングリッシュセンター

全体報告：指導司祭・ボニー神父さま

正式名称は「ジョン デ ブリット イングリッシュセンター」。創立記念日は2月4日で、その日に近い主日に創立記念ミサを行っている。通常のみ사는主日の12時と16時半の2回。ミサと告解は11名の神父が担当している。

活動グループは計17。内訳は、活動グループとして認められているグループが2つ。それ以外の15のグループは「英語グループ」という大きな括りの中で活動し、さらに4つの奉仕活動がある(次頁表参照)。今日はその中から3つのグループが具体的な報告を行う。

## ・プレイズ アンド ワーシップ

ネヘミヤ記8章9節～10節をモットーとし、聖歌を歌い、その日の福音を味わい、分かち合い、とりなしの祈りなど、感謝と賛美を形に表して主に捧げる集いを行う。参加者の国籍はアメリカ、日本、ガーナ、ルワンダなど様々で、祈りや分かち合いはバイリンガルで行われる。第1日曜日の10時～10時半、信徒会館203室にて活動中。

・エンジェルズ

活動開始は2010年。当時、フィリピン人の親御さんから「子どもが英語を理解できず、教会に来たがらない」という声が多数あったため、英語のミサ中、別室に子どもたちを集めて日本語で福音を伝えるようになったのが始まりである。近年は日本語と英語で行っている。対象は6歳～12歳。基本の活動は第一日曜日、英語ミサ中にザビエル聖堂において、聖歌、祈り、福音の読み聞かせなどを行う。

・国際青年会(SIYM)

イエスを中心に豊かで意味のある人生を生きるよう、青年たちを励まし力づけることを目指している。神から与えられている賜物や感性、独創性を引き出し高めること、メンバーの霊的成長と育成を支えることを役割と考え、これらに基づく活動を行っている。おもな活動は主日16時半ミサの奉仕、イグナチオ・ユース・デーの開催、リビングロザリー、巡礼、黙想会、クリスマス・キャロリングなど。

イングリッシュセンターの活動グループ
英語聖歌隊
日本語教室
英語グループ(侍者会、エンジェルズ、コーヒー・ウェルカム・ミニストリー、英語圏月例会議、聖体奉仕者チーム、信仰育成講座、御言葉の分かち合いグループ、先唱者・聖書朗読チーム、広報チーム、英語センター事務スタッフ、プレイズ&ワーシップ、聖堂係・典礼奉仕者グループ、国際青年会、日曜学校、日本語教室、配信チーム)
奉仕活動(洗礼および回心準備講座、初聖体の準備、堅信準備講座、結婚準備講座)

◆東京・インドネシア共同体

1996年に誕生し、イグナチオ教会とアンセルモ教会(目黒教会)を拠点に、2人の司祭の下、活動を行っている。イグナチオ教会に集う

信徒は40名～80名。コロナ以前は月2回のミサをしていたが、現在は第2日曜日、16時半からの1回のみ。オンラインミサの配信は月2回行っている。合唱団、合宿と黙想会、懇親会、イグナチオ教会の教会祭への参加、東京教区のインターナショナルミサへの参加などの他、各種SNSを使った情報配信などを積極的に行っている。

◆ベトナム人カトリック共同体

18歳～35歳の若者中心の共同体である。コロナ禍になり、オンラインミサの配信、パンデミックによる生活困難者へのサポートなど新たな活動も始めた。関東地方にはベトナム人の若者が多く住むことから、在日生活の困難や故郷への思いなどを分かち合う「ベトナム関東青年会」を立ち上げた。神の愛を実践するキリスト者として、つながりを必要とする人々に愛の灯をともらせたいと願っている。

◆スペイン語圏コミュニティ

ガラルダ神父さまと二人のシスターの指導の下、教会内のセントロ・ロヨラを拠点に活動中。ミサは主日の13時半から主聖堂にて。定例ミーティング、聖書講話、福音を日常生活で実践するための講話などの他、日本人向けのスペイン語クラス、外国人向けの日本語クラスなどを開催している(コロナ禍によりミサ以外の対面活動はほぼ休止中)。聖イグナチオ年に合わせ、「日常生活における霊操」をテーマにした講話をネット配信し、全国からアクセスがある。

共同体の高齢化、日本人の配偶者や日本語がわかる若者がコミュニティに関わらないことなどが目下の課題である。

信徒の分かち合いから

各共同体の報告の後、参加者の皆さまが分かち合いを行いました。抜粋してご意見を紹介します。

「各国ならではのアイデアや文化を取り込み、共に何かをつくりあげたり成長したりして、より良い教会にしていきたい」

「言葉の壁を越えるには、掃除など体を使った活動から始めると良いのではないかと」

「各共同体の代表者が出席して課題や問題的などを共有する連絡会を作ってはどうか」

英神父さまのまとめ

国際青年会は3人の若者の発案で始まり、今は数百人規模に成長し、CTIC(カトリック東京国際センター)の活動の大きな力になっています。聖書の中からのし種のたとえが現実になっているのです。また私の心にもっとも強く残っているミサは、献堂20周年のインターナショナルミサです。各国共同体の力が結集したすばらしいミサでした。定期的に行事を企画運営することは、協働を進める一助になるでしょう。

ただしそれだけでは足りません。つながりを深めていくには、目的を設定し、その達成に向けて協力しあうことです。例えばベトナム人共同体がコロナによる生活困窮者の支援を行っていましたが、こうした活動は協働の良い機会になるはずと。分かち合いで出た「掃除など体を使った活動」というのも良い案ですね。

様々な可能性と機会を探り、本来の意味での「カトリック＝普遍」な教会を作っていけるように願っています。